

## パリDAC通信

第102回「DACの主な活動分野:援助統計と援助審査について」(2010年2月1日)

DACの今後のあり方を見直すために行われたリフレクション作業の報告書<sup>1</sup>は、DACの主な活動分野として、統計、援助審査、援助効果、政策ガイダンス、の4分野を挙げています。「DACと言えば、パリ宣言やアクラ行動計画(通称AAA)などの援助効果が活動の中心だろう」と赴任前には考えていましたが、実際に赴任して約半年が経つと、援助統計、援助審査、政策ガイダンスなどもDACの活動として重要であることに気づきます。ここでは、そのうちの援助統計と援助審査について、皆様の役に立つかとも思われる資料とともに簡単にご紹介したいと思います。

援助統計は、ドナー国から報告を基に、ドナー国から開発途上国への資金を取り纏めたものです。その中心はODA(政府開発援助)ですが、他にもODA以外の公的開発資金、市場ベースの民間資金、民間による贈与なども記載されています。2008年の実績値が2009年12月に公開されており([www.oecd.org/dac/stats/dac/dcrannex](http://www.oecd.org/dac/stats/dac/dcrannex))、2007年から2008年にかけて、DAC加盟国全体のODAが約12%増加している、日本のODAも約11%増加して引き続き世界で5番目の量である、などが分かります。私は知らなかったのですが、DAC加盟国以外のチェコ、ポーランド、トルコ、サウジアラビア、イスラエル、タイ等もODAを報告しており、例えば2008年のサウジアラビアのODAは、イタリアやカナダのODAよりも多いことが記載されています。

援助審査(英語はPeer Review)は、DACの加盟国間で相互に援助政策を確認するものです。加盟国であれば4、5年毎に審査を受けています。審査国2カ国と事務局が合同で被審査国及びフィールドを訪問して情報収集・意見交換をして、最終的にはDACにおける議論により勧告を含む報告書が作成されます。最近では2009年11月にイタリアの援助審査会合が開催されました。フランスとギリシャが審査国となり、報告書が既に公開されています([www.oecd.org/dac/peerreviews/italy](http://www.oecd.org/dac/peerreviews/italy))。これを見るとイタリアの援助戦略、援助量と配分、援助実施体制等が分かります。例えば、イタリアは農業・食料安全保障を重視しており、国際機関への配分が68%とDACで一番多いことが特徴的です(DAC平均は39.6%、日本は24.8%)。

DACは、パリ宣言に代表される効果的な援助アプローチを議論する場であるとともに、援助統計や援助審査により、加盟国それぞれがお互いに援助を理解して学び合う場とも言えるのかと思います。

---

<sup>1</sup> <http://www.oecd.org/dataoecd/14/1/43854787.pdf>